第六〇回卒業式式辞

皆さま、おはようございます。

本日、久留米大学附設高等学校は第六〇回卒業証書授与式を迎えました。高校三年生の皆さん、そして、保護者の方々は、これから間もなく、本校の卒業証書を実際に手にします。しかし、正式には、高校三年生の皆さんは、三月一杯は、まだ本校の生徒であります。ここでは、もう卒業生と言い切ってしまいましょう。そして、皆さんに申し上げましょう。

ご卒業、本当におめでとうございます。保護者の方々も大変お喜びのことと存じます。おめでとうございます。

この式典は、皆さんの卒業式ですが、門出の式でもあります。長い間の努力が報われたという証でもありますが、新しい世界に挑戦しようという志を改めて確かめるときでもあります。そういう皆さんのために、多くのご来賓の方々にご列席いただいております。後ほど、お言葉をいただく方々、久留米大学永田見生学長、学校法人久留米大学神代正道理事長、久留米大学附設高等学校同窓会長谷川房生会長、久留米大学附設高等学校後援会緒方徹志会長の皆様を始め、いちいちお名前を挙げませんが、大学、法人、同窓会、後援会の学部長、理事、役員の方々に皆さんの門出を見守っていただいております。その上、卒業生の皆さんにとって懐かしい恩師のお元気なお顔も来賓席に見えると思います。ご来賓の皆様には、ご列席、本当にありがとうございます。なお、ご祝辞を福岡県小川洋知事、久留米市楢原利則市長、筑後地区を始めとする各地の高等学校、卒業生の皆さんに関わりのある中学校、小学校からいただいております。

さて、卒業式は門出の式でもあると申しました。確かに、英語ではコメンスメントとも言います。コメンスは「始める」という意味がありますし、フランス語なら今も日常的にコマンセという言葉は使われています。アメリカでは、ゲストによるコメンスメント・アドレスという習慣があります。最近亡くなったスティーヴ・ジョブズさんのスタンフォードでのコメンスメント・アドレス、七年前になりますが、非常に有名で、特に、その一節、ステイハングリー、ステイフーリッシュという言葉、がつがつしていろ、利いた風になるな、とでもいうのでしょうか、この言葉はよく引用されています。しばらく前に読んだティナ・シーリグ（Tina Seelig）というスタンフォードの先生が書いたウォットアイウィッシュアイニューウェンアイワズトウェンニ（What I wish I knew when I was 20）という本に何かコメントがあったような気がしてざっと眺めてみたのですが、どこだったか見つかりませんでした。この本を敢えて挙げたのは、日本とアメリカがどう違うかがよくわか

るからなのですが、この本自体は著者の一人息子が一六歳になったのを機会に親としていろいろと伝えておきたいことをまとめているうちに、こんな本になった。息子の二十の誕生日プレゼントになったと最後にあります。格調の高い本ではありませんが、一種の卒業式の祝辞でもあります。若い人向けの書物という意味で、お勧めします。元気が出ます。いずれにせよ、このくらいの英語の本は怖がらずに挑戦してください。

もちろん、日本はアメリカとは違うので、校長としての式辞を用意しました。今しばらく我慢してください。今回、式辞がなかなか用意できなかったのですが、その理由は、この一年間に起きたことをいろいろと思い起こしたからでした。学校でも新しい校舎への移転があり、実際に、新しい校舎に入ってみると、まだ、半分だけということはありますが、予想していなかったことがいくつもありました。皆さんにも何か落ち着かなかったという点もあったでしょう。でも、何事も経験で、万事が思っていた通りに行くという方がおかしいのかも知れないと感じていただければ、それはそれで学ぶ点があったので、これからの人生に生かしてください。

学校外のことでは、間もなく一年になる東日本大震災、大津波による被害、そして、福島第一原子力発電所の水蒸気爆発以下一連の事故、と枚挙に暇がありません。わたくしから見れば、一般に、起きてしまったことについては時間は元に戻せませんから、問題は、事後をいかに適切かつ迅速に処理していくことだ、と考えています。残念なことに、あの三月一一日の震災の処理がいまだに混乱していますが、それは、発生後の数日以内、せいぜい一週間までの間に行なっておくべきであったことが全く行なわれなかったからだと少なくともわたくしは判断しています。しかし、今となっては、そして皆さんの前で、この点を論じても仕方がないと思います。むしろ、なぜ、こういうクリティカルな時点に限って有効であるような、適切かつ迅速な対策ができなかったのだろうか、という分析をすることが、これからの皆さんにとっては一番重要なことだと思います。

ところで、三月一一日の東京都内での人々の行動の話を思い出すと、本当に無事でよかった、都内にいた人たちはたまたま運がよかっただけだと思うことがたくさんあります。皆さんに身近なところでは、あのときは、国立大学の後期試験の直前で、皆さんの先輩もかなりの人たちが一一日晩に東京宿泊の予定を立てていました。夕方東京に着いた人たちは、停電と余震の続く中、交通機関が皆止まっていたものですから、何と、空港からホテルまで歩いたと後で聞きました。都内で働いていた人たちも何時間もかけて自宅まで歩いて帰ったということが報じられました。結果的に大事に至らなかったからよいようなものの、実は、とんでもないことであって、多数の人たちが大きな危険性の中に放置されてしまっていたのでした。どうして、こんなことになっていたのでしょうか。

いずれも想像力の質が問題なのだろうとわたくしは考えています。それは、どういうことなのでしょうか。つまり、想像力を駆使して、何が起きるか、どうなるか、あるいは、起きたことから逆算して実際に起きていたことは何か、という判断をする。さらに、こういう風に日頃から想像力を働かせているか、ということもあるでしょう。想像力のためには、理詰めに考えるだけでなく、視覚的な描像も駆使しなければならないでしょう。課題それぞれによって、まわりの事情も異なりますが、それらを読み込みながら、想像力を動員した上で、すべき行動を選び出している、と、わたくしたちは、まあ、こんな風に生きているわけです。通常は、起りそうなことは、その…、いわゆる「想定内」のことだけなので、想像力を意識して鍛えようとはなかなか思わないわけですが、しかし、そこを意識して行ない、想像力をさらに分析的に駆使する習慣を身に着けてほしいと皆さんにお願いします。その一方で、自分が関わっている事柄について、自分なりの理想像のようなものを、しかし、思い込みや思い入れではなく、自分自身に確実に見えたものから出発した上で作る、むしろ、育て上げるように日頃から努める、じつは、これも想像力の課題なのですが、そのようにしていると、何か異様なことが起きても、その異様さの程度を、自分の理想像の中で評価できるでしょう。そして、理想像との乖離の度合いから、とるべき対策の全体像が、たとえ、おぼろげであっても、すぐに見えて来る、とわたくしは信じています。

皆さんにお伝えしたいメッセージは、ぜひとも良質な想像力を育んでください、ということです。つまり、皆さんの前にはこれからいろいろなことが起きます。いいことも悪いこともあるでしょう。しかし、皆さんはこれから出会うことになるものごとのひとつひとつに、皆さん自身の考えというものを持って立ち向かわなければなりません。それにはどうしたらいいのか。自分にしかない経験の活かし方や判断、そういうことを通じて、皆さんをめぐる総合的な世界というものを作り上げてください。もちろん、その世界は刻一刻と変わりますし、変わらなければならないものですが、その変わり方の把握や理解には、実は、皆さん一人一人の価値観が反映します。その意味で、正しい価値観を養うことと良質な想像力を育むことは直結します。附設の卒業生として、皆さんには、国家・社会に貢献しようとする、為他の気概をもった誠実努力の人物を目指しているという自覚があると思いますが、これこそが皆さんの価値観の基礎をなすものです。

皆さんの前にすばらしい人生が開けますことを祈念し、わたくしの式辞を終わりにします。

本日は大変おめでとうございました。

平成二四年三月一日

校長　　吉川　敦